

## 心房細動 ～早期発見・早期治療が鍵！～

### ●心房細動とは？

私たちの心臓は電気信号によって、1分間に50～100回の規則正しい収縮と拡張をくり返し、血液を全身に送り出しています。ところが、この電気信号が乱れると、心房が不規則にふるえてうまく収縮できなくなります。これが心房細動で、高齢者に多く見られる不整脈です。加齢とともに増加し、70歳代の5%、80歳代の10%程度の割合で起こるといわれています。自覚症状がなく、健康診断などでたまたま見つかることもよくあります。

心房細動は加齢のほかには高血圧、拡張型心筋症や心肥大等の心臓病によって引き起こされることがあります。飲酒や喫煙、過労、ストレス、暴飲暴食、睡眠不足など不規則な生活等も原因であるといわれており、30～50歳代の働き盛りの方が経験することも珍しくありません。

### ●症状は？

心房細動になったからといって、すぐに命に関わるほどの危険性はありませんが、動悸や胸苦しさ、息切れなど、様々な不快な症状を伴うことが多いため生活の質が低下します。また脈拍数が極端に速くなったり遅くなったりすることで、失神や心不全をおこすこともあり、時には命に関わる危険な状態となる可能性があります。また、心臓内によんだ血液がたまることにより、血栓(血のかたまり)ができやすくなります。これが脳に飛び、脳の血管がつまってしまうと脳梗塞を引き起こします。長嶋茂雄元巨人軍監督やサッカーのオシム監督、そして首相在任中に亡くなった小渕恵三さんなどは心房細動が原因の脳梗塞だったことは御存じでしょう。

### ●治療方法は？

心房細動の診断のためには、まず心電図検査が行われます。さらに、24時間分の心電図を記録するホルター心電図、心臓の形、大きさ、機能を評価するための心臓エコー検査なども行われます。

治療は、年齢や症状、心房細動の種類、心臓病の有無などを総合的に考慮し決定されます。基本的な治療には、心房細動自体の治療と脳梗塞の予防の

ための治療があります。

心房細動自体の治療には、薬で心臓を正常なリズムに戻す場合と、脈拍数をコントロールする方法があります。また、カテーテルで不整脈を起こす原因となっている所を焼き切る治療(カテーテルアブレーション治療)も行われます。

脳梗塞の予防には、血液を固まりにくくする薬を飲むこととなります。これまではワーファリンという薬しかありませんでした。ワーファリンは納豆や緑黄色野菜などビタミンKを多く含む食べ物の影響を受けやすく、定期的に血液検査をして効果を確認し、投与量の調整をすることが必要でした。しかし、ここ1～2年、新規経口抗凝固薬とよばれる薬も出てきました。定期的な検査の必要がなく、食事制限も必要ありません。脳梗塞予防効果は比較的きちんとコントロールされたワーファリンと同じか、それより優れています。一方で大出血や脳出血の危険性はワーファリンよりも大幅に低いというメリットがあります。ただ、ワーファリンよりかなり高価で、心房細動の原因によっては使えません。また、腎障害がある場合には注意が必要です。

### ●最後に…

心房細動は治療法が格段に向上し、確立されつつある不整脈です。慢性化すると体が慣れてしまい、不整脈を感じにくくなるため、ある日突然脳梗塞を起こしかねません。早期発見し早期治療することが大切です。とくに高血圧や糖尿病、心臓病のある方は心房細動を起こしやすいとされていますので、定期的に検査を受けましょう。



和水平町立病院 副院長 平島 公平

## 歴史調査の楽しみ方

# 江栗城跡

13

## 大田 幸博

(元・菊水町史編集委員会副委員長)

**9** 月は、II郭下のK区(南側)と、本体部分のL区(東側)を調査しました。ツクツクボウシの鳴き声が、調査日ごとに弱々しくなり、日々、秋が深まっています。

**L区** 東下は、第2衛生センターです。出入りする車のエンジン音や、操業機械のモーター音を聞きながらの調査になりました。

56は、東端部の区画になります。長さ27m、最大幅8m、南端で、すぼまり、51とは、1.7mの高低差があります。

〔付記〕「日平城跡調査報告書」は、8月に、母校の学習院大学の資料館を通じて、皇太子殿下にお渡しすることができました。「殿下から、よろしくお伝えください」とのお言葉がありましたと館から便りが届き、益永浩仁係長と喜びを分かち合いました。そして、調査開始の頃、現地説明資料をお送りしたところ「この日平城跡は、何と読みますか」と館職員に質問されたことを思い出しました。

**K区** 急な斜面部に、5段の帯状削平地が連続しています。斜面に対する各段の切り込みは、非常に大きく、大規模工事の痕跡が伺えます。法面は、いずれも急峻に削り落されて、登り難く、威圧感もあります。

53は、標高47～48m、長さ46m、幅3m、6.5m(北東縁)、51とは、1.6mの高低差があります。南西端で、空堀1の北肩部にあたる法面に吸収されています。

57は、全長98m、幅7.5m、上段bと2.8mの高低差があります。造成の度合いが高い平場です。

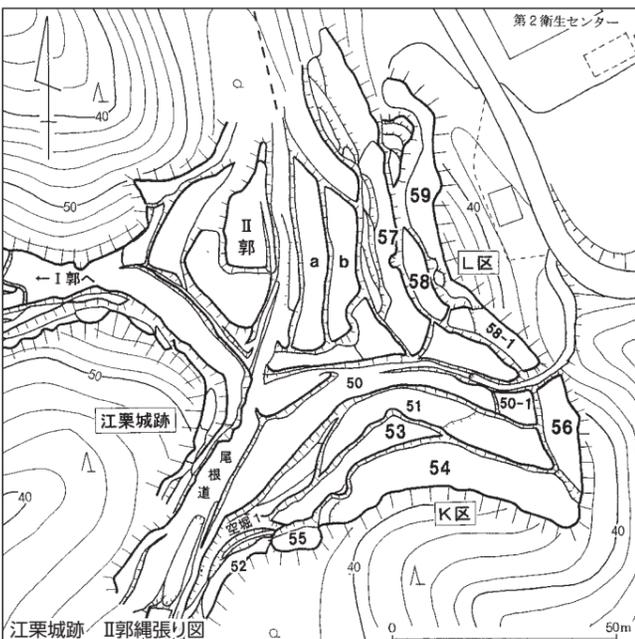
59は、全長74m、幅1.5m～7.5m、や蛇行した地形になります。58との高低差は2.5mです。まとまりを持った造成地は、この範囲までとなります。ここまでは下ると、センターの敷地が、目前に迫ります。

II郭の北端は、大きく括れて、尾根道に吸収されています。III郭(城の尾)とI郭(詰めの城)を繋ぐ、小規模な区画であることがわかります。

54は、極めて大型の造成地で、やや弧状の区画です。全長63m、最大幅10m、53とは、1.3mの高低差があります。現地をよく見ると、空堀1が、この区画へ延びてくる可能性も出てきました。この場合、南縁に積まれた土塁を崩して、空堀を埋め立てたこととなります。

58は、長さ22.5m、最大幅5m、北端が、すぼまっています。57との高低差は2.4mで、小段の類の造成地です。

58-1は、58の南東端に当たります。長さ23m、最大幅5m、段落ちで、1.3mの高低差があります。この区画は、極めて、造成の度合いが高いことが特徴です。真っ平らで、法面の削り落しも急峻です。下に写真を掲載しました。



調査員の左側、真っ平らな平場(58-1)と右側に削り落しとの法面(57南端部)が見えます。城跡地で最高の造成地です。